

講義テーマ：「医療現場に活かす医療安全」

岩崎 浩思（いわさき ひろし）先生 プロフィール

現職：医療法人博光会御幸病院 診療技術部統括 医療安全推進担当

略歴

- 1979年：熊本大学医学部附属診療放射線技師学校 卒業
：熊本市に入職 保健所・保健センター
- 1981年：熊本市市民病院 放射線科 勤務
- 1988年：熊本市立産院 勤務
- 1989年：熊本市市民病院 中央放射線部 勤務
- 1999年：熊本市保健所 地域保健課(医療法事務) 勤務
- 2002年：熊本市市民病院 中央放射線部主任技師
- 2006年：熊本市保健所 地域医療課技術参事(医療法事務)
- 2012年：熊本市保健所 医療政策課
- 2015年：熊本市退職 旅客運送業を経て医療法人弘生会 本庄内科病院 勤務
- 2018年：医療法人博光会 御幸病院 勤務 現在に至る

撮影、放射線治療、CT等に臨床従事、医療法事務、病院立入検査業務、放射線管理

1995年：日本放射線技師会推薦により国際医療貢献事業に派遣、放射線治療分野における品質管理指導としてタイに技術支援

2010年：国立保健医療科学院医療安全管理者研修終了

2018年：熊本中央高校看護専攻科講師

～メッセージ～

このたびは、皆様のスキルアップの研修において医療安全に関する研鑽の場に参加させていただく機会を与えていただきましてありがとうございます。

私も医療の現場を経験して多くの患者と向き合ってきました。その後に出た保健所では、臨床現場の経験を活かした行政指導に心がけ、大変充実した日々を送ることができました。退職後、再び現場に戻って、日々の業務の中から医療安全を通じたTQMの向上につながるものを模索している毎日です。

本日は、行政経験を踏まえながら、法律の求める「医療安全」からTQMの向上へということができるだけ具体的にわかりやすく皆様にお示しできればという意気込みで臨んでまいります。

今回の話が今後皆様の業務に少しでも役立ていただければ幸甚に存じます。



松本 泉（まつもと いずみ）先生 プロフィール

現職：学校法人青照学舎 法人運営機構改革室 主任
公益社団法人日本理学療法士協会 教育学会 運営幹事
公益社団法人日本理学療法士協会 代議員

略歴

1991年3月：西日本リハビリテーション学院 理学療法学科 卒業
4月：医療法人高邦会柳川リハビリテーション病院勤務
1995年4月：医療法人高邦会柳川リハビリテーション病院 理学療法科主任
1997年3月：柳川リハビリテーション病院退職
4月：スポーツコンディショニングプロモーションジン所属
1999年4月：医療法人聖十字会西日本病院勤務
2001年4月：医療法人聖十字会西日本病院 総合リハビリテーション室主任
2002年8月：医療法人聖十字会西日本病院 総合リハビリテーション室室長
2005年4月：西日本リハビリテーション学院 理学療法学科 講師
総合リハビリテーション室室長併任
2013年10月：熊本駅前看護リハビリテーション学院 理学療法学科 講師
2014年10月：熊本駅前看護リハビリテーション学院 理学療法学科 学科長
1月：教務部長代理
2018年4月：学校法人青照学舎 法人運営機構改革推進室 主任

～メッセージ～

人と人がつながった組織を循環させるためにコミュニケーションが大切な役割を果たします。1対1のコミュニケーションを行うこと、部署間のコミュニケーションを行うこと、組織の縦のつながり、横のつながりを行うことに大きな力を発揮するコミュニケーション活用術をお伝えしたいと思います。



森 照明（もり てるあき）先生 プロフィール

現職：社会医療法人敬和会 統括院長

大分県医療コンフリクトマネジメント研究会 会長

役員など：

（財）日本医療メディエーター協会九州支部理事・認定医療メディエーター

（一社）大分県医師会医事紛争処理委員会委員

大分地方裁判所 専門委員

大分県医療コンフリクトマネジメント研究会会長

（財）日本教育推進財団認定コミュニケーショントレーナー

（公財）日本生産性本部認定ダイバーシティアドバイザー

（一社）日本ヘルスケアダイバーシティ学会副理事長

（一社）九州先端リハビリテーションケアクラスター推進機構理事長

（NPO）豊の国より良き医療と健康づくり支援センター副理事長

PHP ビジネスコーチ

アンガーマネジメントファシリテーター

九州コミュニケーション研究会 共同代表世話人

（公社）大分県老人保健施設協会理事

（一社）大分県スポーツ学会顧問（前理事長）

歩行リハビリテーション研究会代表世話人

大分県医療介護ロボ・HAL 研究会世話人代表

大分県スポーツ医科歯科研究会会長

日本脳神経外科学会評議員 日本医療マネジメント学会評議員

日本臨床スポーツ医学会名誉会員

元日本卓球協会スポーツ医科学委員長・ナショナルチームドクター

略歴

昭和 45 年 3 月：東北大学医学部卒業 脳神経外科入局

昭和 57 年 4 月：大分医科大学 助教授 脳神経外科

平成 13 年 4 月：国立療養所 西別府病院院長

平成 21 年 10 月：財団法人 湯布院厚生年金病院院長 国立病院機構西別府病院名誉院長

平成 25 年 7 月：社会医療法人敬和会大分岡病院院長・統括院長

平成 28 年 4 月：大分大学臨床教授

賞罰：

平成 11 年 大分市 スポーツ功労賞

平成 20 年 日本結核医学会 塩田賞

平成 24 年 大分合同新聞社 文化賞

～メッセージ～

2025年に日本は超高齢社会を迎えます。ダイバーシティ導入なくしては成り立ってゆかない社会が到来します。リハビリテーションの世界も同じです。

高齢者、障がい者、外国籍の方、LGBTなど多様性の方々を受け入れ活かし、イノベーションをおこし、組織、社会を活性化することが求められています。医療ロボットとの共生・協働も同じです。これらに伴い理学療法士の皆さんのリハビリテーションの果たす役割も大きいものがあります。

一方、今回のテーマである「理学療法士のコンフリクトマネジメント・トークレーム・コンフリクトへの対応」も大きな課題として上がってきます。

スライドの講義内容10項目に沿って、テーマの背景、コミュニケーション、患者への説明義務、初期対応、転倒、身体拘束、院内暴言・暴力などを取り上げ、それらに対する課題と対策、医療メディエーショントレーニングなどのエクササイズを行いながら解説、体験して頂こうと計画しております。

また、チームコミュニケーションの大切さや上司になってはいけない人なども紹介したいと考えております。

皆様のこれからの活動の一助になれば幸いです。よろしくお願いいたします。